### ⑹　昆虫類　⑯ ハサミムシ目

日本ではハサミムシ目昆虫は30種余りが知られており、埼玉県からはこれまでに15種が記録されている。

本書を刊行するにあたり、これら15種から外来種1種を除いた14種を対象に本県における生息状況を調査した結果、その約29%にあたる4種をレッドリスト掲載種とした。

これまでのハサミムシ目の掲載種数の変遷は、初版と改訂版では調査対象になっておらず、前版では4種をレッドリストにあげ、本書でも前版と同じ種4種をリストした。

ハサミムシ目の昆虫は、ほとんどの種について生態の詳細は不明である。多くの種は日の当たらない湿った場所を好み、夜行性のものが多い。さまざまな隙間（樹皮下、石下、葉の間など）で生活をしており、灯火に飛来するものもいる。体は細長く、尾端にハサミを有し、種ごとに特徴的な形態をしており、オスにおいては顕著である。ハサミを有すことが本目の名前の由来となっている。ハサミは捕食、攻撃、防御に使われる。通常、複眼をもち単眼はない。産卵は土中で行われ、メスはそこに留まって卵を守り、初期の幼虫を保護することが知られている。

県内で記録された外来種は、クギヌキハサミムシ科のスジハサミムシモドキである。本種は国外では中国、ネパール、インド、スリランカ、ベトナム、台湾、フィリピン、ニューギニア島、チモール島、オーストラリア、サモア、と広く分布している。国内で発見された初期には、渡良瀬遊水地およびその周辺河川流域（栃木県、茨城県、群馬県、東京都）で確認されており、侵入経路は不明である。近年では川口市からも記録されている（田悟，2015）。湿地や河川のヨシなどの根元や葉上で見られる。年々分布が拡大しており、他種との関係性などについて注視していく必要のある種である。

ハサミムシ目の県内における生息状況はいまだに不明な点が多い。台地・丘陵帯や低地帯に生息するキバネハサミムシやエゾハサミムシ、東部および南部の平野部や低地から記録されているクギヌキハサミムシなどは開発の影響を受けやすいと考えられる。

［付記］次ページ以降の種ごとの解説における形態や国内分布に関する項目は、町田（監修）・日本直翅類学会（2016）、埼玉県（2008）などを参照した。

科　名　クギヌキハサミムシ科
〔和　名〕**クギヌキハサミムシ**
〔学　名〕*Forficula scudderi* Bormans

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】体長 15 ～ 36mm。短翅型で、短い翅鞘はあるが後翅がない。オスのハサミは短いものから長いものまで、連続した変異がある。

【国内分布】北海道、本州、九州

【主な生息環境】石下や草木上、落ち葉だまり、朽木の樹皮下などから見いだされる。また、成虫は灯火にも誘引される。

【県内での生息状況】これまでにさいたま市や三郷市、吉川市、幸手市で記録がある（埼玉県，2008）。河畔林やヨシの群落などから見いだされている。

【特記事項】これまでの県内の記録から、低湿地に分布している可能性が高いと考えられる。そのため、河川増水時の環境変化が生息に影響を与えていると考えられる。Web サイト情報（たのしくいこっか，2015）では外来種のスジハサミムシモドキ *Elaunon bipartitus* とともに観察されているようである。

科　名　クロハサミムシ科
〔和　名〕**チビハサミムシ**
〔学　名〕*Labia curvicauda* Motschulsky

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】体長 5 ～ 7mm。小型のハサミムシ。オスのハサミは左右がそれぞれ円弧状に湾曲し、体は扁平。前胸背板は黄赤色から黒褐色まで変化がある。

【国内分布】本州、九州、南西諸島

【主な生息環境】樹皮下や枯れ枝、落ち葉中に見られる。

【県内での生息状況】今回の調査により嵐山町と入間市より確認された。

【特記事項】県内における分布、生息状況の詳細は不明。

科　名　クギヌキハサミムシ科
〔和　名〕**キバネハサミムシ**
〔学　名〕*Forficura mikado* Burr

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】体長 11 ～ 20mm。翅は黄褐色。オスのハサミは長短の 2 型がある。ハサミの基部は広い。

【国内分布】北海道、本州

【主な生息環境】山地の湿った場所や、河川付近の石下や植物上に見られる。丘陵帯においては荒川河川敷の河畔林などから見いだされている。

【県内での生息状況】山地帯から低山帯にかけて広く分布する。台地・丘陵帯では皆野町、旧江南町（現熊谷市）の荒川河川敷から記録されている（埼玉県，2008）。丘陵帯や低地帯では生息地は限定的と考えられる。

【特記事項】丘陵帯や低地帯では、河川敷の造成や河畔林の伐採などにより生息環境が破壊される可能性がある。

科　名　クギヌキハサミムシ科
〔和　名〕**エゾハサミムシ**
〔学　名〕*Eparchus yezoensis* (Matsumura et Shiraki)

埼玉県(2018)　LP　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】体長 15 ～ 22mm。雌雄ともに長いハサミを持ち、前翅に 1 対の黄色紋がある。後翅の翅端付近にも黄色紋を持つ。

【国内分布】北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】落葉落枝の多い渓流沿いの林床や、ガレ場の中から見いだされる。丘陵帯においても湿度の高い林縁や沢筋などから発見されている。

【県内での生息状況】低山帯や山地帯では比較的広範囲に分布していると考えられる。丘陵帯では嵐山町や小川町、寄居町などで数例の記録がある（埼玉，2008）。

【特記事項】今回の調査で台風などの大雨の増水によって流されてきた個体を寄居町で確認した。河川の氾濫などが生息域を拡大させている可能性も考えられる。